

令和2年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立大森東小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基本的な用具や材料の扱いに慣れることができた。
- ・自分らしい発想や主題をもつことができた。
- ・造形作品に興味や関心をもち、積極的に知りたいと思う気持ちをもてた。

(2) 課題

- ・「図工室での学習のきまり」を覚えていない、守れない児童が多数いる。
- ・表現することに自信がなく、苦手意識をもっている児童がいる。
- ・既習の材料や用具の使い方を組み合わせて表現することや、表したいことに合わせて使うことが難しい。
- ・集中力が足りず、すぐに完成させたがる児童が多数いる。

2 授業の分析

① 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・手や体全体の感覚を使って行うような、細かな作業が課題である。 ・セロテープの切り方や、貼り方など、日常で身に付く技能が身に付いていない。	・自分で新しいことを想像することが、課題である。 ・近くの席の児童が作る作品を真似してしまう児童が2割ほどいる。	・表現することに自信が無い児童が2割ほどいる。 ・作業途中に私語をし、作業の手が止まってしまう児童が2割ほどいる。

② 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・既習の学習に対して、知識はあるが、他の場面で生かすことができていない児童が多い。 ・製作のスピードが遅く、時間内で作品を完成させられない児童が4割いる。	・自分の作品を大切に思う気持ちが少ない児童が3割ほどいる。 ・作品を工夫しようとして、すぐに終わりにしてしまう児童が2割ほどいる。	・身近な作品や有名な作品に、興味を示す児童が少ない。

③ 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・何を描いたらいいかわからないと悩む児童がいる。 ・表現することに自信が無い児童や、人と違うことに不安を感じる児童がいる。 ・造形的視点が十分に養われていない。	・自分の思いや考えを発表することが苦手な児童が多い。 ・作品を鑑賞する際、作者の意図や工夫に注目できている児童は3割程にとどまっている。	・自分の考えや思い、世界観をもつことはできているが、それを実際に表現することに苦手意識を持っている児童が多い。 ・作品作りについての工夫が課題である。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・手や体全体の感覚を働かせながら、活動ができる題材を多く取り入れる。 ・テープや雑巾など、身近な道具の使い方も、細かく指導をする。	・身近な材料や、自分の好きなもの、色や形から、想像を広げることができる活動を取り入れる。 ・人の真似することは悪いことではないが、自分にしか描けないものを作るよさを伝える。	・児童が製作した作品や活動を積極的に褒め、表現活動を楽しめるように声掛けをし、自信につなげる。 ・作業をする時は私語をしないよう、徹底する。

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・既習の技法や用具を適切に扱えるよう、1つの作品でも2つ以上技法を組み合わせるような活動をする。 ・作業スピードが遅い児童への支援を増やす。	・使用できるもの、用途があるものをつくることで、作ったものに対する自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。 ・工夫できそうな点を考えるよう、アドバイスをする。	・身近な作品や有名な作品など、様々な作品に触れる機会を取り入れるようにする。

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・表現したいことに合わせて、材料や用具、技法を工夫するように声をかける。 ・造形的な視点を意識できるよう、自分や他の作品に多く触れる機会を作り、自分が見ている視点や、他者との違い、価値観に気付くことができるようにする。	・造形的な視点や表現の意図、工夫を意識することができるよう、自分の感じたことを発表し、また他者の考えや感じたことを聞く機会を設ける。 ・他者との考えの違いや共通点を認めながら、造形的視点を育む。	・自分の考えたこと、表したいことや世界観を、表すために、様々な材料や用具を適切に使える場を設置する。 ・他者の工夫点や発表を聞くことで、自分も一層工夫したいと思う気持ちを育む。